

令和 4 年 10 月 26 日

令和 5 年度保険料率に関する評議会における意見（鹿児島支部）【参考資料】

（令和 4 年 10 月 19 日開催 鹿児島支部評議会）

【評議会の意見】

- ・来年度の平均保険料率は 10%維持を要望する。また、今後 10%維持が難しくなるという試算をふまえ、引き続き国庫補助の引き上げを要望する。

【評議員の個別意見】

（学識経験者）

- ・実質賃金が物価高に追い付いていない状況で、平均保険料率 10%の維持は至上命題。保険者の努力だけでは限界があるので、国庫補助を本則の上限 20%まで引き上げるよう強く訴えていくべき。
- ・中小企業ではまだ賃金の上昇は期待できない。また、コロナの影響からの回復も見込めない中、将来の 10%維持は難しいという試算からも、10%維持は仕方がないと考える。
- ・可処分所得も上がらず、まだコロナの影響もあり現状は厳しい。10%維持がいいと感じている。

（事業主代表）

- ・平均保険料率は 10%を維持していただきたい。

（被保険者代表）

- ・今後の高齢化の進行による支える側と支えられる側の状況を考えると危惧するところはあるが、やはり 10%の維持については是非お願いしたい。今後は、物価上昇に伴う賃金上昇も期待できるのではないかとやや楽観的にとらえている。
- ・今後の見通しが厳しいことは理解しているが、準備金も積み上がっている中、平均保険料率 10%は限界と思う。是非 10%維持をお願いしたいし、維持する施策や国庫補助を限界まで上げということも必要。令和 5 年度の鹿児島支部の保険料率は下がる見込みということだが、10%を超えているのでまだ厳しい状況だと思う。
- ・最近、企業型 DC を導入している事業所が増加しており、この掛け金が給与とみなされないため標準報酬月額が下がり保険料が下がっている。法改正により個人型の iDeCo と企業型 DC とが共存できるようになり、更に企業型 DC の加入者が増えると思われ、所得は増加するが標準

報酬月額が下がる現象が多くなることが予想される。今後の保険料率の収支に影響が出るか、動向を見ていく必要があると思う。

**(記載にあたっての留意事項)**

- ・ 【評議会の意見】には、評議会において取りまとめられた意見を記載してください。  
ただし、評議員同士で異なる意見がある場合は、必ずしも意見を一つに集約する必要はなく、「○○○という意見と○○○という意見の両方の意見があった」、「○○○という意見が多数だったが、一部の評議員からは○○○という意見も出された」などと記載いただくことでも構いません。
- ・ また、【評議員の個別意見】には、評議会の各代表から出された代表的な意見や特筆すべき意見について、要旨を簡潔に記載してください。